

# 変わやがトカラ情報

十島村教育委員会  
〒892-0822 鹿児島市泉町 13 番 13 号  
TEL 099-227-9771

南北160km 「心をつなぎ気概に満ちた」十島の教育

## 5月・・・年度当初の学校訪問

十島村教育長 有村 孝一

毎年5月のレントゲン便を利用して、鹿児島教育事務所と合同の学校訪問を実施しています。今年も5月



16日から19日にかけて実施しました。今回は、県教委から寺地教育次長、菊地義務教育課長、鹿児島教育大脇所長、総勢8名で訪問しました。

毎年恒例のレントゲン便と

いうことで、それぞれの目的を持った多くの人が乗船していました。波が少し高く船は少々揺れましたが、定刻5時10分に口之島に着きました。

その後、すぐに学校へと向かいました。7時過ぎまで新年度の学校経営方針等の説明を受けたり施設の参観などを行いました。校舎から見下ろす海は、きらきらと輝き、私たちを大歓迎しているようでした。

中之島小・中学校では、授業参観の後、子育て施設「中之島ほしのこ園」も参観し、元気な子どもたちの様子をみる事ができました。今年から本校となった諏訪之瀬島小・中学校は活気にあふれていました。真新しい校名板が印象的でした。平島では、児童生徒による太鼓の演奏で迎えられました。全校児童生徒6人による力強い演奏に心を打たれました。

悪石島小・中学校では、サッカーをしている元気な子どもたちのあいさつで迎えられました。先生たちも一緒になり、大変楽しそうでした。この日はここで停泊でした。波もだいぶ穏やかになりました。



(中之島) 歴史民俗資料館

翌日は、小宝島と宝島の両小・中学校を訪問しました。小宝島は、少ない時間の中で、時間いっぱい質疑が行われ、教室では先生方と子どもたちの真剣な取り組みの様子を見ることができました。宝島は、学級増により教員数が増え、児童生徒15人に対して教員数14人という大変恵まれた環境になったということが話題となりました。

急ぎ足での学校訪問でしたが、それぞれの学校の新たな取組などを見聞することができました。7島ともに本校となり、昨年以上に活気を感じました。今年も、先生方や児童生徒の頑張る姿が見られることを期待

します。今回訪問していただきました方々には、各学校の様子をご覧いただき、貴重なご指導を賜り、大変ありがとうございました。

この文章を書いている時、中学生28人が修学旅行に出発しました。小学生は、間もなく出発します。小学生は、熊本地震の影響で行く先を霧島方面に変更しましたが、それぞれ、日頃はなかなか会うことのできない仲間たちと、いい学びを、そしていい交流をできてほしいと思います。



## ありがとう！ 田知行さん

今年も、5月8日の「母の日」のために、十島村の9



4小中学生に、本名町の田知行義久さんからカーネーションが贈られました。子どもたちは、満面の笑みを浮かべながら、お母さんや里親に、1本ごとにリボンが付けられたカーネーションを手渡しました。その光

景を写した写真には、お互いの「ありがとう」の気持ちが溢れていました。

昔、本名町と十島村が同じ鹿児島郡だった縁で始まったこの贈りものは、今年も十島村の親子に幸せを運んでくれました。今年で35回目という田知行さんのこの心優しい思いには、頭が下がります。心から感謝を申し上げます。

「親を大切にする心」「人に感謝する心」は、時代は変わっても常に人として大切な心です。このカーネーションの贈り物を機に、十島村の子どもたち全体にこのような大切な心がさらに育まれていくことを願っています。



シリーズ—新聞に投稿  
(平成28年5月10日南日本新聞に掲載)  
口之島小学校 2年 林 優希



わたしは4月に、かごしまから十島の口のしまに

ひっこしてきました。口のしま小中学校は、小学生10人、中学生3人です。わたしのクラスは1年生と2年生が同じきょうしつでべんきょうしています。1年生のゆうまくんと2年生のこうしくんとわたしの3人で、わたしのたんにんの先生は、わたしのおとうさんです。人ずうがすくないので、1年生からいいんかいかつどうやほうそうどうばんがあります。今までやったことはなかったけど、上きゅうせいがやさしくおしえてくれるので、あんしんしてできます。

エイサーや金かんバンド、空手のれんしゅうが、ほかごや休みの日にはあります。早く上きゅう生みたいになりたいです。

口のしまの人はみんなやさしいです。おとうとやいもうとが外であそんでいると、きんじょの人があそんでくれたり、おかしをくれたり、かわいがってくれます。おとうとは、口のしまにずっとすみたいと言っています。わたしもこのしまが大すきです。

## 考えよう！人権

6月は、特に人権に関する週間や月間が多くあります。日常はあまり意識しないことが多いかもしれませんが、暦を見ながら少し考えてみませんか。先日、南日本新聞に「改正発達障害者支援法」成立の記事が載っていました。新聞やネット等で調べてみましょう。

- 男女雇用機会均等月間 (6月)
- HIV検査普及週間 (6/1~7日)
- 人権擁護委員の日 (6/1)
- らい予防法による被害者の名誉回復及び追悼の日 (6/22)
- 男女共同参画週間 (6/23~6/29)
- ハンセン病問題を正しく理解する週間 (6/16から1週間)



シリーズ—島で暮らす

## これからのぼくと学校

小宝島小学校6年 岩下猛司

ぼくの名前は岩下猛司です。今年の4月で6年生になりました。ぼくは、小宝島に1才の時にきました。それから11年がたちます。不便なことも多い島ですが、島でしか体験することができない多くの良さがあります。ぼくの感じる小宝島のよさは、島民全員が顔見知りで安心して暮らせることです。島民の方と会ったら、「元気。」「昔はこんな遊びしていたんだよ。」など声をかけてくれます。

また、自然が豊かな島なので、木登りをしたり、めずらしい昆虫をつかまえたりすることができます。去年は、4cm以上もあるヒラタクワガタを見つけました。

ぼくは今年で小学校の最上級学年になりました。そこでがんばりたいことがあります。一つ目は、人の話をしっかりと聞くことです。なぜなら、ぼーっと



して話の内容を理解できないことがよくあったからです。二つ目は、返事をしっかりすることです。」自分の間違いを素直に認めることができるようになりました。ぼくのお父さんは、最近骨折をしてしまいました。ぼくは、お父さんを助けてあげないといけません。いつも以上にお手伝いをしたり、弟や妹のめんどうをしっかりとみたりする必要があります。

今年の児童生徒会のスローガンは、「笑顔満開 きらきら輝け 新小宝っ子」です。このスローガンには、みんなが楽しくいじめのない学校をつくってこうという思いが込められています。新という文字には、特別な意味があります。それは、今年の4月から小宝島分校が本校になったということです。本校1年目のスタートをみんなで作るべく、協力しあえるような学校を作り上げていけるようがんばりたいです。

## 十島村の小・中学校からのメッセージ

悪石島小学校 教諭 森木 かずえ

「ナイスシュート!」「パスまわして!」そんな子どもたちの元気な声が校庭から聞こえてくる放課後や休日。小1から中2までの異年齢で、一緒になって遊ぶ様子を見ていると微笑ましくなります。早いもので悪石島に来て1年が経ちました。極小規模校での勤務に心配や不安はあったものの、やはりそれを上回る楽しさややりがい、あったかさを感じます。まずは、子どもたちとじっくり向き合えること、子どもの理解度や実態に合わせて授業が組み立てられることです。小中併設校というメリットもあります。子どもたち同士はもちろんです。小学部の私からすれば、中学校における先生方の子どもたちとの関わり方や授業の進め方を知ることで、「学び」の幅が広がりました。

そして、この島に来てよかったと思うのは、やはり気さくな島民の方々との交流があることです。島の行事や学校行事で、赤ちゃんから高齢者の方々まで盛り上がる雰囲気が大好きです。道端で出会ったときの「お疲れ様」のひとこと、帰宅途中の「大根持って行って。」「魚が釣れたから持ってきたよ。」の言葉、そんな温かさに心がほっこりします。3月の卒業式、5年ぶりの小学1年生を迎えた先月の入学式でも、子どもたちの成長を心から喜んでくださっていることが、伝わってきました。島全体で子どもたちを育てるという恵まれた環境に、自分と我が子がいることは、本当に幸せです。

だからこそ、学校にいる私自身が、どのように子どもたちの成長をサポートできるかを考えていきたい。

## 「教職員仲間であるあなた」への

### 私からのメッセージ

「職場で笑いを忘れない!」「分からないことは尋ねる!」「他の先生の技を盗む!」これに限ります。

少ない人数で過ごす毎日・・・お互いをさりげなく気遣いながら、それぞれの島での楽しみを見つけて、人との関わりを大切にすれば、きっと充実した島ライフが送れると思います。